

又彈正大弼輝虎の時代より関東管領は
常ざこれに代り名譽の最なり、系勝の言
より承と武威をあらそひれ、いたるあり
へき事なり、或人曰上杉播磨守成津總務系
初より三代目
の代といはれ地三十五万石の内十二万石は奥
羽後諸にありけしる烟ありて石上至賜郡
十七万石を領し又その後出郡の内言烟は三
万石を石上領十五万石となりて烟三万
石少く料となり、此代皮持之是と羽州は
屬に當りよ五代山といふと取ふこは似ては時君終に信
義にと云ふ

一羽黒大権現

城の西玉庭村より羽後の中継社領に
未考神と一人あり

一若松親者

若松ハ弟沢の一名之弟光祐親信ふる
弟進の弟下に若松の親者へ玉環の山林
なるに十石宛行ありと云

一卜長井飯

至賜郡の内より要員より屬に續太平記
二十九と云曰伊達大權方丈といふ人有